

「神様の計画！！」

～本物を選ぶ～

創世記6：5～22

■ あなたは何を選びますか？

東日本大震災から5年が経ちます。震災から1ヵ月後、ある記者が取材に行き「私たちに何ができますか？」と尋ねたところ、まだ1ヶ月しか経ってない中、ある町長が「この事を風化させないでください。」と言いました。この町長は立場ゆえに5年も10年も先のことを想定していました。私たちクリスチャンはこの事をいつも覚えておかなければなりません。目の前の出来事には嬉しくもない事、逃げたくもない事があるかもしれません。でも私たちが見るのはそこではありません。聖書はいつも先を見なさいと伝えています。なぜこういう状況があるのか、それを通して私たちは何ができるのでしょうか。震災の中で多くの人が失望し、絶望しました。その中で何人かの人が希望を見出しました。希望を見出しその道を選んだ人と、絶望の中にとどまってしまった人がいます。同じ状況です。そこに差別はありません。決断に差別はないのです。自らが選んだことなのです。ノアはある日突然今まで一度も見ただけがなかった山という予言を神様からただ一人語られました。神様の壮大な計画をただ一人、ノアが聞いたのです。ノアにとってみればその御言葉に従うことは大変な試練だったと思います。まわりのみんなには気が狂ったとも思われたでしょう。なにせ箱舟は海ではなく山の上で造られたからです。しかしノアはただ一人、ノアに語られた神様の言葉を信じました。あなたはどうか？神様はあなたに「こうする」と言われました。だから「こうしなさい」と。聖書には必ずこの二つがあります。しかし私たちは「こうなる」という事は信じられません。「こうしなさい」と言われる事は全て忘れてしまいます。言ったことすら覚えていません。これは忘却です。神様は何度も繰り返して言われるわけではありません。あなたに「こうしなさい」と言われた事、それを忘れてはいけません。神様はダビデを通して私たちがどう生きるべきかを教えておられます。私たちの父祖アブラハム、イサク、ヤコブにしてくれた事、赦され、守られ、救出された事、解放された事を思い起こすために、年4回のお祭りがあります。伝承というのは時に私たちを小さくしてしまいますが、知らないという事は怖いことです。知っていて忘れていくという事はもっと怖い事です。震災から5年、あの沢山の犠牲の元にこの日本国がもう一度建てられ、そこで平安な生活を送っている私たちはもう一度神様の前に何を考えなければいけないかを思い起こしつつ、箱舟のノアのように神様がせよといわれたことを諦めずにおこなわなければなりません。

■ 本物を選ぶ

イタリア料理をする人はなぜイタリアに学びに行きますか？フランス料理をする人はなぜフランスに学びに行くのでしょうか？世の中は偽物だらけです。私たちも形だけでなく内側を追究していきましょ。自分自身が本物かどうか考えてみて下さい。本物のクリスチャンですか？その時代に神様はノアを見つけました。神様がノアに語られた箱舟の設計は全長135mの壮大な舟でした。神様の語られた設計図は1対1.6...黄金比率です。完璧な設計です。今ある担架はこの黄金比率から造られています。神様がせよと言った事は本物の追求でした。どうやってこの世にある物を本物か偽物か見分けるのでしょうか。それは本物を見ることです。触って、体験する事です。本物を食べなければ、偽物はわかりません。神様が造った物を見分けるには、本物を体験しなければわかりません。どう繕っても、わかります。教会もそうです。教会というのは「本物」が集うところ。痛んでいるときには痛んだらいいんです、悲しいときには悲しんだらいいんです。しかし繕ってはいけません、着飾ってはいけません。「本物」でいるから、ありのまま向き合うから解決するのです。本物には魅了するものがあります。わかるのです。伝わるのです。あなたは本物のクリスチャンですか？

■ ①本物にふれて本物に生きる！！～「偽者」に注意～

偽者とは私たちの内側に忍び寄り悪しき者です。本物も騙されると偽者になってしまいます。どんなに素晴らしいことをしていてもひとつ、大事なことを損なうと駄目なのです。聖書をひとつの事を大切にしなければなりません。本物であるということです。それは素直であるという事です。素直な信仰です。行動は後からついてきます。周りの人を見るときに、悪い態度の中に、本物のその人の姿をみていく事が大切です。そして本物の自分を見ていくことが大切です。偽者に騙されないでください。あなたは礼拝を大切にしていますか？礼拝は祝福の原点です。あなたが神様の前に本物のあなたを保つための最大の恵みです。私たちクリスチャンは本物を買かなければなりません。それはあなたが周りを祝福するためなのです。本物のクリスチャンは神様の前に出ることを喜ぶことです。これだけでいいのです。神様が求めておられるのは、あなたがあなたのまま帰ってきなさい。と。ただそれだけなのです。神様はあなたと一緒にいたいのです。あなたが「喜んで」神様に会いたいという気持ちが必要なのです。

■ ②神様の計画は今ではない～近視眼？に注意せよ～

ノアは120年待ちました。そしてそれはノアの家族だけが救われる事ではありませんでした。アダムとイヴから世界が腐敗しました。そしてノアの洪水で流されリセットされた後もありますが、それゆえに色々なことが神によって整えられていきました。イエス・キリストが生まれるまでの道がノアの家系からはじまったのです。意味があるのです。私たちは今しか見ません。貧しさ、立場、周りからの眼、e t c...。神様の目線は今ではなく、あなたが天国に帰る日までです。そしてそれは次の世代に継承されて行くときまで、神様の大きな御手の中にあり、神様はそのひとつひとつを全て大切にされています。それゆえ「愛はたらきて益となる」といわれています。それにも関わらず私たちは今だけを見ようとし、あなたの価値観を変えなければならぬとしたら、「今を見る目線」です。社会の風潮に押し流されないで下さい。いつも神様が何をせよというのか、イエス様がここにおられたらどうするかを考えてほしいのです。教会は風潮に合わせるわけにはいきません。イエス様ならどうするか？イエス様ならどう言うか？なのです。私たちがもうありたいのです。今を見てはいけません。今を見るという事は近視眼です。今を見るのは危険です。近視眼で見えず、先のことからわからないのです。しかし先のことからわかる人は誰もいません。先が見えているのは神様だけです。だからこそ先が見えている神様に聞かなければなりません。祈って聞いてみて下さい、福音書をひらいて下さい。聖書でイエス様がどう語ったのか、この世のルールに対してどう闘ったのか、99人が同じ答えのときイエス様はどうしたのでしょうか？近視眼に注意してその人が将来どうなるか、自分のこの歩みがこれからどうなっていくのか。夢を持って下さい。願いを願って下さい。どうなりたいのか神様に求めて、それを忘れないで下さい。

■ 日銀速水総裁1998年10月17日の記者会見での言葉

「私は20歳のときに洗礼を受けて、社会に出てからは50年が経ちました。この世の誘惑に脅かされ、試練もたくさん受けました。神様の導きにより良い教会に巡り合い、良い信仰の通にも恵まれてきました。海外に行ったときも日曜日は必ず教会に通い、神様の御前に砕かれた心で罪を告白し、赦しを受け確信してきました。これでクリスチャンとして神様から与えられた大きな力となっています。私自身は全く土の器であり、少しも立派でない器です。それでもこんな私を神様は用いてくださいませ。日本銀行の総裁のような重責に就いて益々神の助けと導きを必要とします。日本銀行本店の総裁室の奥には小さな部屋がありますが、そこに私は二つの掛け軸を掛けています。一つは「平安は主にある」と書いています。もう一つは「おそれるなわたしはあなたとともにいる イザヤ書43：5」という御言葉を書いています。難しい局面に立たされたり、これから何が起るかかわからないというとき神の言葉を思い出して心の平安を得ています。これまでこうした困難をひとつずつ乗り越えてこられたのは、信仰の力であり、本当に神様に感謝しております。」私たちがクリスチャンも置かれている場所で一日一日を平安に保ち、主がともにおられることをいつも保たなければなりません。

■ ③信じたことを実践 ～行う信仰～

ヘブル人への手紙11：7「信仰によって、ノアはまだ見ていない事からについて神からの警告を受けたとき、恐れかしこんで、その家族の救いのために箱舟を造り、その箱舟によって、世の罪を定め、信仰による義を相続する者となりました。」

神の計画は今ではないことを受けて、だからこそ実践をします。信仰の実践を行わなければなりません。たくさんのごではなく、ひとつの事を今日決意して下さい。「ひとつの事をわれらむ。主の家に住み命の日のある限り主をみることを」私たちはひとつのことを願わなければなりません。それはイエス様と一緒に居ることです。彼が今何をせよと言っているかです。神様の前に誠実を大切に出来なくなったら、その他の1週間神様と一緒にいれるわけがありません。しかしこれは強制やそのようなものではありません。愛する物同士が一緒にいるようなものなのです。礼拝は喜びの場所となるべきなのです。そうすると礼拝は命が起ります。奇跡が起ります。あなたの問題は解決されていきます。願ったことが起こるようになります。日曜日、問題があるならそれらを置いて、イエス様と居ることを大事にして下さい。他の誰でもないあなたが平安を得、あなたにとって元に戻る時間です。

(要約者:富岡 牧)

(3月13日)